

鬼が消えた。



兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザー
島田妙子さん(42)

殺したいと思っていた



父の顔から

虐待を「される子供」も「する大人」も救ってあげたい！

島田妙子さんは、ある記憶を封印していた。

6歳から7年続いた^{しつけ}躾の時間、という名の
折檻地獄。継母からは靴べらでたたかれ、
父親からは首を絞められた。児童相談所に
保護されて以降は、死の恐怖から解放された。

15歳で就職、22歳で結婚して3人の子供に
恵まれ、経営者としても成功を収めた。しかし
3年前から自らの虐待体験を語り始める。

25年前に見た^{まはは}鬼の形相、の
正体を突き止めるために――。

「もしかしたらよその家も
こんなもんかもしれんし」
そう思っ、子供は虐待
を我慢する。叱られる理由
がさっぱりわからなくても
どんなに激しい暴力を受け
ても、それは自分が悪いか
らだろうと、また愛される
ことを待っている。親の顔
色をうかがいながら。
しかし、大人は逃げる。
説明できない自分から。ど
んどん醜くなっていく自分
から――。

「皆さん、虐待って字、どう
書くかご存じですか？。虐
めを待つ。って書くんですよ。」

誰が待つねん、そんなもんっ
て感じですよねえ」
壇上の島田妙子さん(42)
が関西人らしい早口で、こう
まくしたてると、それまで沈
みがちだった会場の重たい空
気が一変。笑いが起こった。
大阪市住吉区にある幼稚園
の講堂で、今年3月に行われ
た講演のことだ。
講演テーマは「虐待」。島
田さんはスタッフ50人を擁す
る映像制作会社イージェット
の代表取締役を務めながら、
3年前から児童虐待防止の活
動に力を注いでいる。
島田さん自身、小学1年生
から中学2年生までの7年間、
親から虐待を受けてきた。

シリーズ
人間

No.2177
題字/武田双雲

卷一

火事があり、
「日中、子供だけでいるのは危ないから」と、3きょうだいは児童相談所を経て、児童養護施設へ送られた。そこで小学校入学を迎えた年の冬休み。父が再婚し、再び団地で家族そろって暮らせることになった。
「父と継母が私たちを施設に迎えに来た日の晩ごはんは、すきやきでした。継母は必死で私たちに話しかけてきて。継母さん、こんとき22歳ですよ。今思えば、彼女も不安やったと思います」
その後、父親は一戸建てを購入。一家は郊外に転居した。優しかった継母が変わり始めたのは、翌年の夏。妊娠がわかったころからだった。
家事は子供たちに任せ、一日横になったまま、何もしな

い日が増えていった。
ある夕のこと。兄たちはまだ学校から帰らず、島田さんは2階で宿題をしていた。すると階下から継母が呼んだ。「ちよっとー」
残りわずかの宿題をすませてしまおうと、島田さんが、
**「寝たらあかんの
継母の躰は父親**
「今日から、あんたらが悪いことをしたらたたいていくからな。これは『躰』やからな」
継母は高らかに宣言し、以後、子供たちを毎日たたいた兄たちも同様だ。自分もつらかったが、兄がたたかれるのはもともと嫌だった。
「特に仲がよかった下の兄が目の前でたたかれると本当につらくて。兄も私がたたかれると『やめたってー』とかばっ

私が呼んだら、何があってもすぐに来て。わかった？」

消え入りそうな声で、「はい」と返事をする。継母は金切り声を上げた。

「『はい』違うやろ。『ごめんなさい』やろ！」

虐待の始まりだった。

刑「ひい立ちの刑」。

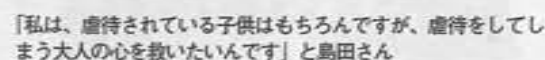
に伝染していく

てくれる。すると継母は「なに気色悪いきようだい愛、出しとんねん」と、また靴べらで兄の腕を何十回もたたたく。

おなかに赤ちゃんがいるからイラつくのかとも思ったが生まれた後も継母の「糞」は終わらなかった。

一緒に洗うと赤ちゃんの服が汚れるからと、きょうだいの服は洗濯板で手洗いだっただもろん自分たちで洗う。寝

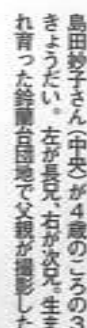
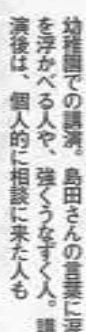
「それは集やからな」と、ひと言、添えた。「そんなアホなと思ひながら、たたかれてゐることを父に言つたら、この家はつぶれてしまふ。弟も生まれたんやからつて我慢していた」しかし、父親が気づかない



「ちよつと待つて」と答えると、ドスドスと階段を上がってくる継母の足音が。ガラリと子供部屋の前が。聞く音と同時に、目に飛び込んできたのは、鬼のような形相の継母だった。

「人が呼んだのに、なんですぐ来うへんのや」

そう叫ぶや、継母はブラスタツクの靴べらで、島田さんの二の腕を思い切りたたいた。その場にへたり込み泣きだす娘を見て、継母は言った。



会場に集まった30人ほどの
園児のお母さんたちは皆、食
い入るような目で、島田さん
を見つめていた。

「そんなつもりはないけど、
やっぱり（子供を）パチーン
といってしまうこと、あるん
ですよ。お母さんは、やるこ
とたくさんあって、しんどい
ですからね。私だってありま
した……」

聴衆は身を乗り出す。

「ホントはよくないんですよ
ダメなんです。それでもね、
もしも子供にパチコーンッ
と一発やってしまったら、ここ
が大事です。その日のうちに
心を静めて、お子さんに素直
に「ごめん」言うんです。『さ
っきはお母ちゃんが悪かった
イライラして、ひどいことを
して、ごめん』って。この
ひと言が大事なんです」

皆一斉にうなずく。涙ぐん
でいる人もいる。

「この「ごめん」が言えずに一晩、たっちやうでしよ。朝起きたら、子供はこわごわ、お母さんの様子、うかがってきますよ。親も罪悪感があるから、目を合わせられない。それで、しまいいには「なに見とんねん」と、余計にいら立って、また手が出る。こうしてだんだん自分が止めきれなくなっていくんです」

島田さんは非常に具体的に誰かがわかりやすい状況での虐待を語った。

講演終了後には、あらかじめ配られていたアンケートにびっしりと自身の体験を書くママさんと、握手を求める人そして島田さんと長い間話し込んでいる人もいた。

「誰かが寄り添ってくれるだけで、抱えているしんどさって癒すこともできるんですよ。私のやっている虐待防止の活動はね、子供だけじゃなしに

虐待してしまつたほうも助けたいんです」

虐待問題の活動家が多いが加害者にも寄り添い、彼らを助けたと言う、その考え方が

父子家庭でも継母が来て子供

島田さんは72年2月、兵庫県神戸市の六甲山の麓の町で生まれた。兄が2人いる末っ子で、全員が年子だった。

父・弥一郎さん（88年没・享年42）と母・和子さん（65）は共働きで、家計は貧しく、3きょうだいは、真冬でも半袖半ズボン、素足にズックで青鼻をたらしめているのがトレードマークだった。

島田さんが5歳になる直前のこと。家に帰ると、部屋の前がめっちゃくちゃになっていた。食器があちこちで割れ、壁や床は醤油まみれだ。

「私はドリフのコントみたい

が新鮮だった。

死を覚悟するほどの虐待に
遭いながらも、なぜ、そう思
うようになったのか。彼女の
半生を追ってみた。

**不しかった。若い
ができるまでは**
やんって思ったんですけど」
激しい夫婦げんかの跡だっ
た。その日、母は一人、家を
出た。幼い島田さんは無邪気
に母を見送ったという。

「小ちやすぎて、母が出てい
く意味がわからなかったん
ですね」

両親は離婚し、父親は男手
一つで子育てに取り組んだ。
「父がおでんなんかを作っ
てくれた記憶があります。父の
帰宅前に布団を敷いて、誰が
父の横で寝るかを兄たちとジ
ヤンケンで決めたり。たまに
早く帰る日は、皆で一緒に入
る風呂も楽しかったなあ」


**日本美容外科医師会
認定医院**

★美容外科併設院

新宿に本院を置く
全国17院

札幌
仙台
宇都宮
大宮
柏
新宿本院★
銀座
名古屋
高松
大分
熊本
福岡
岡山
大阪★
高崎
所沢
浜松

NEW

スリズ間

（週刊）

島田さんはそこで親友を見つめる。同じ団地に住むヨッチだ。ヨッチにだけは家庭内の事情を話せた。ヨッチの母親も心配してくれた。



長男・誠くんは記者の「お母さんからたたかれたことない？」という質問に「殴るのは素人のすることですよ」と周囲を笑わせた

我慢するから。中学を出たら働いて、あの家を出るねん」そう言うと、ヨッチの母親は泣いてくれた。

中学2年の春、赴任してきた庄治恵子先生（56）も、島田さんに寄り添ってくれた。

当時27歳の庄治先生は、4月末の家庭訪問で、虐待を確信したという。家に上がって印象に残ったのが座布団のシミだ。それは島田さんが日々、両親から投げつけられた熱々のみそ汁の跡だった。

庄治先生は言った。

「大丈夫や。何があっても私が守るよ！」

学年主任は、10円玉10枚と、各先生の自宅電話番号を書いたメモを渡してくれた。

「もうあかんってときは、必

ず電話するんやで」

大人への不信感は、熱心な先生や優しい大人たちのおかげで少しずつ払拭されていく。だが、虐待も進化を始めた。両親は自分で手を出さず、兄に殴らせたのだ。

「上の兄が泣きながら殴るんです。手加減するとボコボコにされるので、目をつぶってグーで、私の頬を殴る」

中3の5月、耐えきれなくなり島田さんは家を出る。両親は学校に呼び出され、教師に詰問されたが、兄の暴力だと言いつづけた。帰宅すると、継母はこうすこんだ。

「今度、余計なことをしたら顔にキッパンハイターかけたるで」

数日後、父親が預かってい

た「団地自治会の会費」が家の中でなくなっていた。父親は躊躇せず3人を殴りつけ、とどめだと言わんばかりに島田さんの首を絞めはじめた。

「あかん。今日こそ死ぬ」

向かっていったのは長兄だった。逆上した父親は、ガラスの灰皿で、力いっぱい兄の頭を殴った。殴られた頭から、大量の血が噴き出し、兄の体はブルブルと震え続けた。

「親父、いい加減に目を覚ましてくれ」

そうやって次兄は泣いて懇願するが、父親は奇声を発して灰皿を壁に投げつけた。

失神している長兄を前に、みなしばらくその場を動けなかったが、ふと我に返った父親が、タオルで止血し、パツパツ割れた傷を裁縫セットの針と糸で縫いだした。

翌朝、2人の兄は家を出た。島田さんも公衆電話から先生に連絡を取り、保護された。

児童養護施設で暮らすことになり、虐待の恐怖から解放された島田さんは、わずか1年で20センチ身長が伸びた。栄養不足のほどがわかる。

その年の暮れ、児童養護施設に1本の電話があった。父親からだった。

「えい、どうしようっていう感じでした。受話器を受け取っても、しばらくジッと見つめていたと思います」

「妙子か？」

鼓膜を揺らしたのには懐かしい、優しい父親の声だった。

「悪かったな」

「えっ？」

「ホンマに、ホンマに悪かった」

父親は謝罪を繰り返したが、島田さんは、混乱するばかりだった。

両親は島田さんと離れてすぐに離婚していた。継母は実子を連れて家を出て、長兄は住み込みの仕事に就いた。家には次兄と父親が残った。

「そうか、お父ちゃんは一



「私はこの子が生きてくれてホッとした。親子を繋いだ責任をずっと感じてた」と中学の担任・庄治先生

はずはない。

「そりゃあそうですよね。家庭内の重苦しく不穏な空気や私ら3人の曇った表情を見れば……気づきますよね」



経営する映像制作会社で、同社は契約する国小・幼稚園の映像集「想いのアルバム」を制作している

父親の帰りはほとんど遅くなった。酒量も増えた。

「父は直視しなくなかったんちゃいますか。それが余計に継母さんの気持ちを逆なでするわけですよ。『あんなの子やろ。誰が面倒みたってんねん』ってことですよ」

ある晩、ついに父親がキレた。酔って子供たちを居間に呼びつけて、順番に殴り倒してしまおうと激しかった。

この日を境に、父親が継母の虐待に加わったのだ。

酔った父親の前で、継母が子供たちをのしり始めると、それが折檻開始の合図だ。続いて、その悪口を継母が父親に言い立てると、3人は「そろそろや」と身を固くした。

父親が鉄拳を振り上げるまで、継母の暴言は止まらなかった。

「父は継母にマインドコントロールされてもいるかのよ

うでした。昔の優しくった面影なんてまるでなくて」

ある冬の夜、父親に殴られた島田さんは、つい父親の顔をまじまじと見てしまった。

「なんやその目は。親に対して、その目はなんや！」

父親は逆上し、さらに強く娘を殴り、引き倒した。その勢いで服が破れ、彼女は半裸で逃げ出した。

外には雪が積もっていた。雪の中を小学生とはいえ、裸同然の娘が逃げまどい、鬼の形相で追いかける父親。さすがに近所の目を気にしてか、継母が止めた。

1時間後、島田さんは冷えた体を、湯船につけて温めていた。幼稚園のころの優しくった父親の顔が浮かんで、涙がとめどなくあふれてくる。そのとき、風呂の扉が突然開いた。

今、思い描いていた父親と

は似ても似つかぬ。鬼の顔。が現れた。無言で島田さんの髪をわしづかみにして湯の中に突っ込む。小さな頭はブクブクと湯の中に沈んだ。

息ができない。

次兄が必死で父親を止める声が遠くに聞こえる。さすがの継母も何か叫んでいた。

「あかん。なんなんでもやりすぎや」

島田さんは死を覚悟した。

「でも、抵抗はしませんでした。このまま私が消えればすべてが終わる、お父ちゃんもたたかんようになるやろうと思って」。いちばんイヤやっつたのは、父の人相が変わっていくことでしたから。

髪をつかんでいた手が、湯

「妹を助けようとして灰皿で殴られた兄。頭からは大量の血が噴き出していた」

小学5年のころ、両親はパチンコに依存。借金がかさみ、家を売却して、ポートアイランドの団地に引っ越した。

「これで気がすんだやろ」

島田さんは窒息寸前でフラフラだったが、この言葉に強い憤りが湧き上がる。

声にならない声で叫んだ。

「お父ちゃん、今、なんて？ お父ちゃん、誰にビビって、毎日毎日、自分の子供、殴ってんねん」

この日、島田さんは、実の父親を見限った。もう、優しいお父ちゃんに戻ってこないならば一刻も早く、家を出ようとして心を決めた。

美容整形情報 美容医療相談室



プライバシー徹底厳守

- お腹・腰まわり痩せ
- バストの張り・ボリューム
- 顔のたるみ
- 部分的しわ
- シミ・くすみ
- 目元のタルミ
- ワキガ・多汗症
- 切らないリフトアップ
- 薄毛・抜け毛
- 目の下のふくらみ

安心 サポート 丁寧

全国どこからでも、無料でご相談・ご紹介。お電話予約受付中。

あなたのお悩みを解消します

ビューティー相談室

相談無料

0120-975-901

受付時間 10:00-19:00 年中無休 東京都港区新橋1-11-3 新橋ビル5F

http://soudan-go.com

スリズ間

（文）

父親の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。

「父みたいな悲しい人を、もうつくったらかあかんのです！」

8カ月後の'88年8月、父親は一人、帰らぬ人となった。まだ42歳の若さだった。

食道や胃が焼けたが、それでもかろうじて一命をとりとめた。一時は筆談ができるまで回復するも、父親がメモに書く言葉は、いつも決まって「ごめん」だった。

しかし、1週間後のクリスマススイブに、父親は自殺を図った。大量の酒と一緒に、排水口のパイプ洗浄剤を飲んだのだ。

「戻ったんやと……。中学卒業後は自立するって決めていましたが、ふいに親子のやり直しがしたいと思っただけです。あのとき、とても気分が高揚したのを覚えています」

しかし、1週間後のクリスマススイブに、父親は自殺を図った。大量の酒と一緒に、排水口のパイプ洗浄剤を飲んだのだ。

「戻ったんやと……。中学卒業後は自立するって決めていましたが、ふいに親子のやり直しがしたいと思っただけです。あのとき、とても気分が高揚したのを覚えています」

しかし、1週間後のクリスマススイブに、父親は自殺を図った。大量の酒と一緒に、排水口のパイプ洗浄剤を飲んだのだ。



次兄の遺影を見上げて。「子供のころ私を守ってくれたように、大人になっても自分のことを脇に置いて人のために尽くせる人でした」

中学卒業後は、住み込みで働ける冷凍食品の会社に就職する。2年で円満退社し、さまざまな職を経て、19歳で映像制作会社へ。22歳で結婚。長女出産を機に専業主婦になり、3人の子宝に恵まれた。末っ子の長男は発達障害と診断され、ときどきパニックを起こしたが、島田さんは夫の両親の介護まで引き受けて、ずっと突っ走ってきた。過去を振り返るヒマなど全くなかった。

「父みたいな悲しい人を、もうつくったらかあかんのです！」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」
「父の死から25年、島田さんは虐待された日々を封印したまま過ごしてきた。」

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠

取材／仲本 剛
撮影／加治屋 誠